

2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月12日

上場会社名 株式会社 ひらまつ

上場取引所 東

コード番号 2764 URL <https://www.hiramatsu.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 CEO (氏名) 遠藤 久

問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 北島 英樹

TEL 03-5793-8818

四半期報告書提出予定日 2022年8月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	2,880	52.3	249		254		262	
2022年3月期第1四半期	1,892	188.3	766		733		780	

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 251百万円 (%) 2022年3月期第1四半期 807百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	3.72	
2022年3月期第1四半期	17.77	

2022年3月期第1四半期及び2023年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	22,203	5,135	23.0
2022年3月期	22,804	5,387	23.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 5,114百万円 2022年3月期 5,365百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,425	35.5	515		565		584		8.27
通期	11,763	27.6	623		720		759		10.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	74,740,400 株	2022年3月期	74,740,400 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	4,018,739 株	2022年3月期	4,018,739 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	70,721,661 株	2022年3月期1Q	43,931,961 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の緩和により経済活動に一部持ち直しの兆しが見られました。一方、直近足元においては、急激な円安の進行や、ロシア・ウクライナ情勢に起因する資源・エネルギー価格の高騰、更には直近足元における新型コロナウイルス感染症「第7波」による感染拡大により、経済の先行きは再び不透明な状況となりつつあります。

3月のまん延防止等重点措置の解除以降、アフターコロナ/ウィズコロナに向け抑制されていたお客様の外出や国内旅行に対するニーズの本格的な回復が進み、全ての事業の売上が前年同期に比べ大幅に伸びました。レストラン事業においては、週末の席数及びテーブル配置をコロナ前に近い状態に見直しピーク時の集客数の最大化を図ったことにより、ランチおよびディナー営業はコロナ前となる2019年3月期の水準を超える売上となりました。ブライダル事業においては、コロナ禍により顧客のニーズが変化中、常にお客様に寄り添う姿勢で営業活動を行ってきた結果、成約率や客単価の向上が見られ順調に回復しております。またホテル事業においては、海外渡航制限や自治体等による国内旅行喚起施策を背景にした国内旅行回帰の環境のもと、各種施策が奏功し堅調に推移いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高2,880百万円（前年同期比52.3%増）、営業損失249百万円（前年同期は営業損失766百万円）、経常損失254百万円（前年同期は経常損失733百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失262百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失780百万円）と大幅な増収損失減となりました。

なお、2022年5月13日に公表いたしました「新中期経営計画」に対する進捗は、売上高が計画比13.5%増となりその結果、営業損失、経常損失、四半期純損失のそれぞれが、計画比25.1%減、29.1%減、28.7%減と計画を上回っており好調に推移しております。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(レストラン事業)

当第1四半期連結累計期間のレストラン事業の売上高は1,936百万円（前年同期比64.2%増）、営業利益は120百万円（前年同期は営業損失248百万円）となりました。

3月21日にまん延防止等重点措置が解除された事により、レストランにおける集客状況が回復傾向となる中、独自の安全対策基準「Hiramatsuスタンダード」を遵守しながらも、特に週末のピーク時の集客数を最大化できるよう各店で席数及びテーブル配置の見直しを行いました。また、原材料の高騰に対応するため、店舗毎に順次価格設定を見直し、コースの価格改定を進めたことに加え、お客様の来店意欲の喚起と価値向上による単価アップを図るため、全社展開の食材フェアや、地方活性化の取り組みとなる長崎県五島市の食材を使ったフェアの開催などを行った結果、ランチ営業、ディナー営業ともに集客数が大幅に増加し、売上も順調に推移いたしました。カフェ営業においては、企画展の集客が好調な国立新美術館内の店舗や、若い世代からの支持を得ている代官山のカフェ・ミケランジェロが好調に推移いたしました。パーティ営業においては、コロナ前の水準までは回復していないものの、1組当たりの人数制限が緩和され企業主催のパーティが増加傾向にあることに加え、安全対策の徹底により大人数のパーティも徐々に増えていることなどから、売上は前年同期に比べ大幅に増加いたしました。

婚礼営業においては、コロナ禍によりお客様のニーズが変化中、常にお客様に寄り添う姿勢でお客様のニーズに合わせた商品プランの提案販売を行ったことに加え、1組当たりの招待客数が減少傾向であることから、新たなサービスのご提供など、各種施策により組単価を維持向上させた結果、売上は前年同期を大きく上回りました。

(ホテル事業)

当第1四半期連結累計期間のホテル事業の売上高は902百万円（前年同期比30.8%増）、営業損失は59百万円（前年同期は営業損失142百万円）となりました。なお、GOP（販売費及び一般管理費より地代家賃・減価償却費を控除した営業粗利益）につきましては、183百万円（前年同期は103百万円）となっております。

まん延防止等重点措置解除に加え、各自治体による観光支援策の実施などによりお客様の旅行に対する意欲が高まっている中、各拠点の特徴を活かした提案を強化したことにより殆どのホテルが高稼働となり堅調に推移いたしました。昨年3月に開業した軽井沢御代田では、引き続き「焚火ラウンジ」のサービス、ヴィラでの「バーベキュー

ープラン」が好評を得たほか、京都では「おこもりプラン」や高台寺のレストラン及び料亭との連携プランを展開しております。また賢島、熱海、仙石原、宜野座においては、シャンパンやワインを合わせたプランやプレミアムディナーが好評を得ており、それぞれ堅調に推移しております。

(その他)

当第1四半期連結累計期間のその他の売上高は41百万円(前年同期比66.0%減)、営業利益は7百万円(前年同期比62.7%減)となりました。なお、連結子会社との内部取引にかかる調整額を除いた実績は、売上高41百万円(前年同期比83.1%増)、営業利益12百万円(前年同期比77.8%増)と増収増益となっております。

新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限やそれに対する緩和措置、またはテレワークの推奨など生活様式が大きく変化する中、オンラインによるワイン販売の強化に取り組みました。特にオンライン販売のオフ会として複数回開催したワイン販売会は、ソムリエが直接お客様にワインのご説明を行い試飲していただくことで好評を得ており、開催期間中の売上増加に加え、高額なワインの販売にもつながっております。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ601百万円減少し、22,203百万円となりました。これは主に、現金及び預金が372百万円減少、有形固定資産が151百万円減少したことによるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ349百万円減少し、17,067百万円となりました。これは主に、未払消費税等が133百万円減少、未払法人税等が79百万円減少したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ251百万円減少し、5,135百万円となりました。これは主に、利益剰余金が262百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました「2022年3月期 決算短信」に記載された内容から変更はございません。

※業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、潜在的なリスクや不確定要素が含まれております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,581,218	5,208,974
売掛金	559,395	524,588
原材料及び貯蔵品	1,258,624	1,217,579
その他	331,200	359,018
貸倒引当金	△698	△745
流動資産合計	7,729,740	7,309,415
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,431,555	11,316,419
土地	764,963	764,963
その他（純額）	1,395,775	1,359,341
有形固定資産合計	13,592,294	13,440,724
無形固定資産		
投資その他の資産	26,629	28,670
敷金及び保証金	1,337,895	1,338,134
その他	107,972	77,414
投資その他の資産合計	1,445,868	1,415,548
固定資産合計	15,064,792	14,884,943
繰延資産		
新株予約権発行費	7,166	6,399
社債発行費	2,730	2,427
繰延資産合計	9,897	8,827
資産合計	22,804,430	22,203,186

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	328,106	365,463
未払法人税等	87,260	8,106
契約負債	361,217	333,651
その他	1,343,153	1,080,964
流動負債合計	2,119,737	1,788,185
固定負債		
社債	500,000	500,000
長期借入金	14,023,881	14,023,881
資産除去債務	620,400	613,233
その他	152,949	141,934
固定負債合計	15,297,231	15,279,049
負債合計	17,416,968	17,067,234
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,513,525	100,000
資本剰余金	4,244,993	7,658,519
利益剰余金	△417,354	△680,140
自己株式	△2,066,375	△2,066,375
株主資本合計	5,274,789	5,012,003
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	91,152	102,427
その他の包括利益累計額合計	91,152	102,427
新株予約権	21,520	21,520
純資産合計	5,387,461	5,135,951
負債純資産合計	22,804,430	22,203,186

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	1,892,046	2,880,703
売上原価	972,730	1,244,098
売上総利益	919,316	1,636,604
販売費及び一般管理費	1,685,938	1,886,070
営業損失(△)	△766,622	△249,465
営業外収益		
為替差益	75	-
補助金収入	48,762	16,086
その他	15,139	11,943
営業外収益合計	63,977	28,029
営業外費用		
支払利息	16,136	21,041
社債利息	4,153	125
為替差損	-	2,644
株式報酬費用消滅損	-	7,415
その他	10,413	2,015
営業外費用合計	30,703	33,243
経常損失(△)	△733,347	△254,679
特別利益		
固定資産売却益	1,139	-
特別利益合計	1,139	-
特別損失		
固定資産売却損	2,100	-
繰延資産償却費	23,197	-
特別損失合計	25,297	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△757,505	△254,679
法人税、住民税及び事業税	5,272	8,106
法人税等調整額	17,693	-
法人税等合計	22,966	8,106
四半期純損失(△)	△780,471	△262,785
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△780,471	△262,785

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△780,471	△262,785
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△26,970	11,275
その他の包括利益合計	△26,970	11,275
四半期包括利益	△807,441	△251,509
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△807,441	△251,509
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年6月24日開催の第40期定時株主総会決議により、2022年6月24日付で減資の効力が発生し資本金3,413,525千円を減少し、その全額をその他資本剰余金へ振り替えております。

この結果、当第1四半期連結会計期間末において資本金が100,000千円、資本剰余金が7,658,519千円となっております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について、当第1四半期連結累計期間において、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	レストラン事業	ホテル事業	計			
売上高						
サービスの提供	1,160,946	661,526	1,822,472	—	—	1,822,472
物販その他等	18,287	28,522	46,809	22,764	—	69,573
顧客との契約から 生じる収益	1,179,233	690,048	1,869,281	22,764	—	1,892,046
外部顧客への売上高	1,179,233	690,048	1,869,281	22,764	—	1,892,046
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	99,684	△99,684	—
計	1,179,233	690,048	1,869,281	122,449	△99,684	1,892,046
セグメント利益又は損失 (△)	△248,943	△142,836	△391,779	20,221	△395,063	△766,622

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オンライン販売などの事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去△16,614千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△386,892千円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	レストラン事業	ホテル事業	計			
売上高						
サービスの提供	1,913,305	869,764	2,783,070	—	—	2,783,070
物販その他等	23,041	32,897	55,938	41,693	—	97,632
顧客との契約から 生じる収益	1,936,347	902,662	2,839,009	41,693	—	2,880,703
外部顧客への売上高	1,936,347	902,662	2,839,009	41,693	—	2,880,703
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,936,347	902,662	2,839,009	41,693	—	2,880,703
セグメント利益又は損失 (△)	120,433	△59,870	60,562	7,541	△317,569	△249,465

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オンライン販売などの事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去12,787千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△330,357千円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当第1四半期連結会計期間において売上高の回復はみられるものの、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、継続して営業損失を計上しており、また、前連結会計年度末において、財務制限条項に抵触している状況にあることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象及び状況が存在していません。

しかしながら、このような状況に対し、アフターコロナを見据えた新中期経営計画の推進により早期の黒字化を目指すとともに、第三者割当増資による46億円の資金調達及び、30億円の資本性劣後ローンによる資金調達により十分な運転資金を確保していることに加え、各金融機関との間で、2023年3月まで既存借入に関する貸付元本の返済猶予について合意していることから、継続企業の前提に重要な不確実性は認められないものと判断しております。